# 菟田野小だより「桜梅桃李」

No.12　令和4年 9月29日（水）　（http://www.utano-e.ed.city.uda.nara.jp/）

## 4年林間学習　「自然と親しみ、班で協力」

９月22日（木）に、４年生が吐山の県立野外活動センターに森林学習に行きました。台風の影響で荒天が心配されましたが、なんとか持ちこたえて、子どもたちは元気に活動しました。

午前中はアスレチックの代わりに「追跡オリエンテーリング」をしました。三択クイズに答えながら地図に示されたポイントを順にたどり、ゴールを目指すプログラムです。

グループで協力しながら10個のポイントを走破しました。

お弁当の後は、焼き板作りに取り組みました。火起こしから挑戦しましたが、残念ながら煙は出たものの、火はつきませんでした。板は焼いて磨いたものを持ち帰り、後日学校でペイントして完成させます。

10月には宇陀市森林組合の方に来ていただいて、学校林で製材体験を中心とした森林学習第２弾を予定しています。こちらも元気に活動していきたいと思います。

## 教員の産休に伴う臨時講師について

１、２年生を担当していた山澤朋美先生が９月27日から産休に入られました。元気なお子さんがお生まれになることをお祈りします。その代わりとして、岸田哲弥先生が着任されました。引き続き子どもたちが不安なく日々の学校生活と学習に励んでいけるよう努めてまいりますので、ご理解とご協力のほど、よろしくお願いします。

## 思うこと④　「歩み続ける」

７月に行われた陸上の世界選手権オレゴン大会で、日本代表は過去最多に並ぶ４個のメダルを獲得。うち３個は近年、表彰台の常連となっている「競歩」でした。日本の“お家芸”になったと言っていいであろう競歩は、いずれかの足が常に地面から離れないようにして歩き、その速さを競います。大会最終日に行われた男子３５㌔競歩では、川野将虎選手が初の銀メダルに。イタリアのマッシモ・スタノ選手にわずか１秒届きませんでしたが、一騎打ちとなった大激戦は、終盤までどちらが勝つかわからないほどでした。

運動会の練習①

レース後の川野選手の言葉が印象に残りました。それは伝統を築いてきた先輩たちへの感謝の言葉でした。「（昔は今のように恵まれた環境ではなく、何もかも自分でやらないといけなかった）今の日本の競歩があるのは歴代の先輩方のおかげ。バトンをつなげて良かった」と。

運動会の練習②

どんな道も最初からあるわけではありません。草を分け、石を除いて前へ進むことで、小さな道ができます。その後を二人、三人と、何人もの人が続き、踏み固めることによって大道になります。先人のバトンを継ぎ、発展させゆく存在があってこそ、道は大きく開かれていきます。

競歩のように速く「歩」き続けるのは難しくても、「止」まらなければ「少」しずつでも前進することはできます。地に足を着けた歩みを続けられる人が最後に勝ち輝く――それを忘れずに日々を過ごしていこうと思います。